

がん診療連携拠点病院 広報誌

# がん診療ニュース

Cancer Medical News

2015年5月  
第5号

発行 | 佐賀大学医学部附属病院 広報委員会 〒849-8501 佐賀市鍋島5丁目1番1号 TEL0952-31-6511(代)

佐賀県医療センター好生館  
がん統括診療部長 佐藤 清治

### 「好生館における医科歯科連携」

近年、がん治療に伴う様々な合併症に対する口腔ケアによる予防効果が認識されてきました。好生館では平成22年3月より近隣歯科医との医科歯科連携を開始しております。当初は院内に歯科標榜がないため歯科医師会と協議の上、外科手術症例を対象に術前診察、清掃、処置等を県内近隣の歯科医院に依頼しました。術後誤嚥性肺炎など感染性合併症の原因の多くは口腔内細菌と言われているので、その原因菌の除去が最大の目的です。また、口腔内の問題（う歯、歯周病、口内炎等）により経口摂取不良となる方も少なくないため、口腔ケアによる栄養改善や、さらには麻酔時における鑄造冠や歯牙の脱落等によるトラブルを防ぐことも目的としています。

これまで約500名に近隣歯科医を受診頂きましたが、殆どの症例に口腔清掃、スケーリング（歯石除去）がなされ、31%にはう歯治療、12%には歯周病の治療が施されています。また、13%に補綴治療（歯の欠損や歯冠の治療）、同じく13%には抜歯が行われており、普通の日常生活を過ごしている方が殆どであるにもかかわらず、驚くことに約56%の方には清掃のみでなく何らかの治療が施されていました。加えて報告書には詳細な手書きコメントが記されており、ブラッシングの注意点等、入院後に役立つ有用な情報を頂きました。

連携の効果としては、当初の約200例の歯科受診者における術後肺炎発症は1例のみであり、非受診者に比べ有意に減少していました（図1）。その有効性の確認後は、がん化学療法や放射線治療予定の症例にも対象を広げて連携を継続中です。また、2名の口腔外科医師が着任となりました平成25年度からは、院外歯科医との連携に加え、院内での医科歯科連携として救急患者や重症患者への対応も開始している状況です。今後もがん患者さんのQOL向上を目指してさらに連携を強化していきたいと思っております。

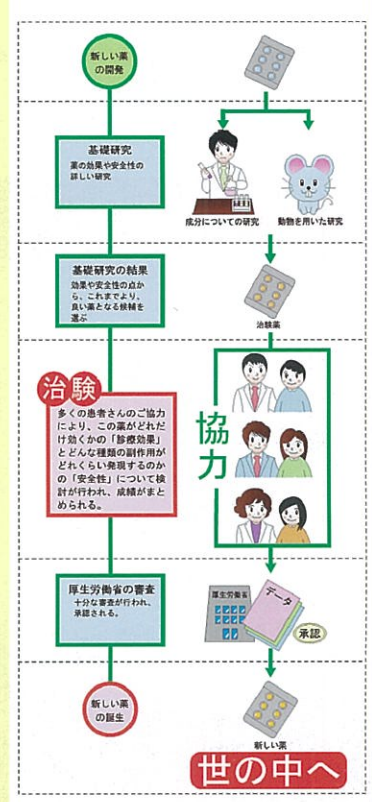


図1

### 「佐賀大学における臨床研究」

がん診療連携拠点病院は、積極的に臨床研究を推進していかなければなりません。臨床研究には大きく分けて、製薬企業を中心となって進め新薬開発に関する「治験」と医師が中心となって医薬品の新たな、またより安全で有効な使用方法を検討していく「医師主導型臨床試験」の2種類があります。「治験」は患者さんに危険が伴うためにGCPと言う、国が定めた厳しい規則に則り実施する必要があります。佐賀大学医学部附属病院治験センターは平成11年10月に設立され、GCPを守りながら、より有効でより安全な新薬を患者さんの手元へ届けられるよう日々頑張っています。さらに、従来からの治療薬であっても、より有効で安全な使用方法を検討するための臨床研究についても、患者さんの利益を守るために、毎月、委員会を開催し倫理上の問題点を厳しく審査しています。平成26年の実績として、佐賀大学では「治験」8件、「医師主導型臨床試験」159件を行っています。

現在当院のがんセンターが責任施設として行っている医師主導型臨床試験のなかで、「1年の完全分子遺伝学的効果を有する慢性期慢性骨髄性白血病に対するダサチニブ治療中断試験（DADI試験）」が注目されています。DADI試験は、これまで生涯飲み続けなければならないとされていた慢性骨髄性白血病の特効薬ダサチニブ（商品名：スプリセル）をある一定期間で中止できる患者さんが約半数程度おられることを世界に先駆けて証明した画期的な臨床試験です。その他にも多くの意義の高い臨床試験が佐賀大学では行われています。ぜひ医学の進歩のためにも、患者さん達の積極的な臨床試験へ参加をお願いいたします。



佐賀大学医学部附属病院  
がんセンター長 木村 晋也

## がん診療連携拠点病院の紹介

唐津赤十字病院  
社会福祉士 松尾 あすみ

### 「唐津赤十字病院のがん患者会“ほほえみの会”について」

唐津赤十字病院におけるがん相談・支援の取り組みの一つとして、特にがん患者会に力を注いでいます。患者同士の情報交換の場が欲しいという患者様からの強い要望が出始め、また、がん診療連携拠点病院の整備に関する指針の中に、相談支援センターの業務の一つとして患者活動に対する支援体制の構築の要望もことから、県内の拠点病院では初めて、平成21年7月に“ほほえみの会”と称して発足しました。

“ほほえみの会”の最大の特徴としては、何らかんの種類は問わないこと、また、当院以外の患者様や御家族もいつでも入会が可能であるということ掲げています。さらに、“ほほえみの会”の存在を院内の案内で初めて知られた入院や外来の患者様も参加出来るようになっていきます。

実際の活動は、毎月第2土曜日の午後1時30分から開催しており、出来るだけ患者様の要望に沿い、本院の医療スタッフによる治療、化学療法、食事、運動、医療費等に関するお話や会員の皆さんでの座談会を中心に行っています。他にも本院主催の年1回の市民公開講座において、会員の皆さんと一緒に活動内容などの掲示物を作成し会場に展示したり、※“ほほえみガーデン”を会員の皆さんと当院中庭に作り、四季折々の花を来院者や職員に喜んでもらっています。

このような活動を通して、会員数は当初の5名から20名に増え、患者様の憩いの場として“ほほえみの会”も徐々に大きく育って来ているところです。

今後、“ほほえみの会”がこれまで以上に会員の皆さんを主体とした活動として成長し、さらに発展して行けるように、私達スタッフも会員の皆さんに寄り添いつつ活動を続けていきたいと思っています。

※“ほほえみガーデン”…何か、いのち、生きていることの大切さを感じさせてくれます。



### 「がん地域連携バス事業」

佐賀県全体で取り組んでいる事業の1つとして『がん地域連携バス事業』があります。県内の4つのがん診療連携拠点病院にそれぞれコーディネーターを配属し、地域の医療機関と専門医を繋ぎ、病診連携の体制の強化に取り組んでいます。バスを利用することによって、がん患者の診療経過・治療計画を専門医と地域の医療機関、そして患者間で情報共有することが出来ます。現在、佐賀県内では胃・大腸・食道・肝・肺・乳・前立腺の7つのがん腫が対象となっており、その中でも更に治療別に分かれている部位もあり、様々なケースでバス適用が可能となっています。

当院では平成23年よりがん地域連携バスの運用をスタートしました。当初は連携医療機関数も30先と少ない状況でしたが、その後バスコーディネーターが配属となり、地域の医療機関に直接出向き、バスによる連携の推進活動をして参りました。現在では連携医療機関数が72先と増加傾向にあり、多くの医療機関にご了承いただいております。

実際のバス適用者への運用の方法については拠点病院によって異なりますが、当院ではまずがんによる入院患者をリストアップし、入院中もしくは退院後の外来時に、コーディネーターよりご本人にバスの説明を実施しています。同意を得られた場合のみ、バス作成後、私のカルテに綴じてご本人にお渡ししています。なかには高齢の方もいますので、場合によっては説明時・お渡しする時にご家族の方にも同席していただいております。

バスの適用率は毎月1割から2割程度で、消化器系で比較的適用率が高い傾向にあります。また、定期的に県内のバスコーディネーターが集まり、意見交換会を開催して情報交換等も実施しています。

今後もがん患者は増えると思われ、この連携バスを使うことで、病診連携が更に強化され、患者本人やご家族も安心して過ごせるよう、今後も推進に努めていきます。

### 名物職員コーナー



こんにちは。嬉野医療センターで院内がん登録を担当しております酒井と申します。この仕事は当院で行われたがん診療を「がん登録」というかたちでデータベース化することです。私は当院での登録業務が始まった時から担当させて頂いておりますが、解剖や病理などまだまだ分からないこともあり周りの先生方に助けて頂きながら業務を行っています。これからもこの環境に感謝しつつ業務に努めたいと思います。

独立行政法人国立病院機構 嬉野医療センター がん登録室 酒井 恵

嬉野医療センター  
独立行政法人国立病院機構 がん対策室長 網田 誠司



# 佐賀県がん診療連携協議会

院内がん登録データ収集・分析・評価推進WG

## 統計からみた佐賀県のがん

(2014年1月調査)

集計対象期間：2007/1/1～2011/12/31

集計対象施設：佐賀県内がん診療連携拠点病院

集計対象症例：初発初回治療症例

詳細は、佐賀県がん診療連携協議会

ホームページをご覧ください。

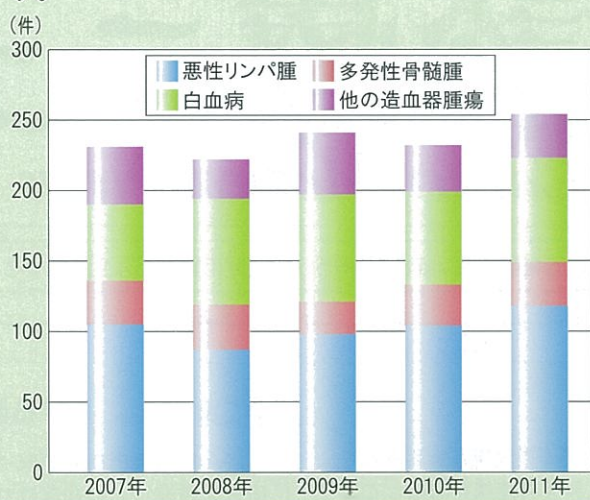
<http://air.med.saga-u.ac.jp/gankyoten/>

2007～2011年症例、全がんの初発初回治療症例の登録数をみると、ゆるやかな増加傾向が見られました。

その中で部位別件数をみると、罹患数の多い順で胃、肺、結腸の順となり、今回は第4位の造血系疾患に着目してみました。

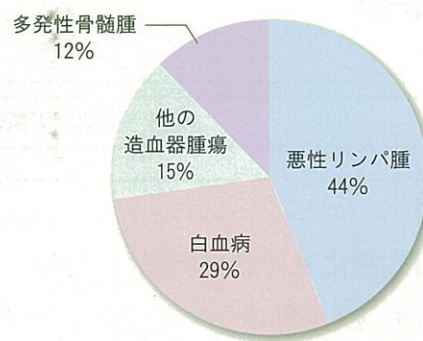
## 造血系疾患 年間推移

造血系疾患における登録件数について、全体の登録件数同様にゆるやかな増加傾向を示しています。



## 造血系疾患 分類

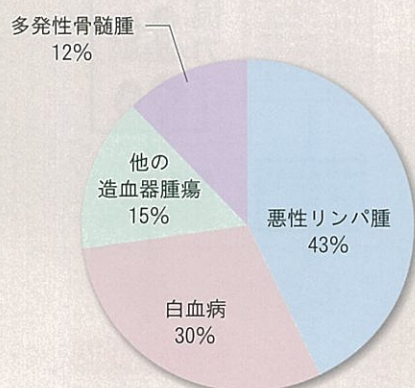
造血系疾患における分類別割合でみると、悪性リンパ腫、白血病の順で、次いで他の造血器腫瘍、多発性骨髄腫となっています。また他の造血器腫瘍では約7割を骨髄異形成症候群が占めています。



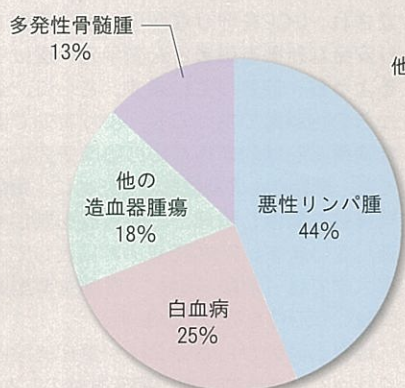
## 造血系疾患 各施設 疾患分類別

施設別の造血系疾患割合の比較です。唐津赤十字病院で白血病の割合が高いことがわかりました。

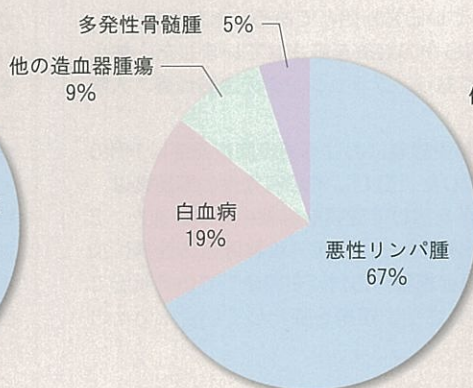
### 佐賀大学



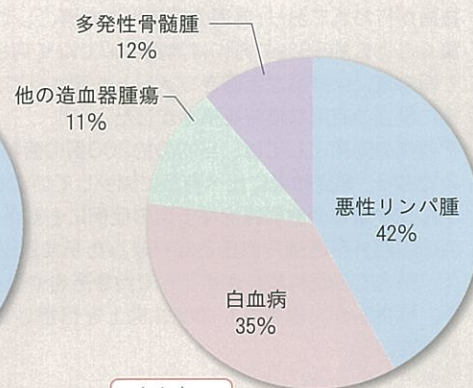
### 好生館



### 嬉野医療センター

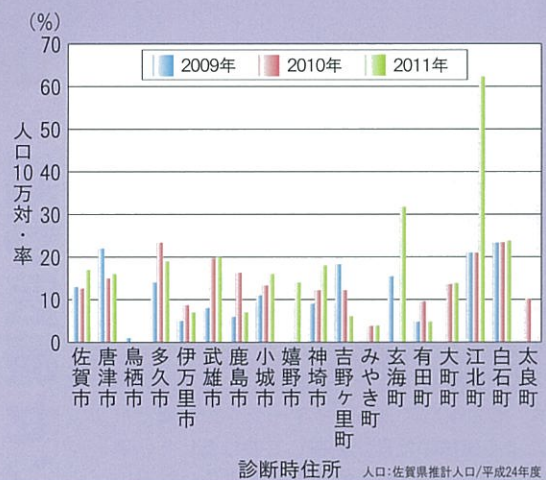


### 唐津赤十字病院



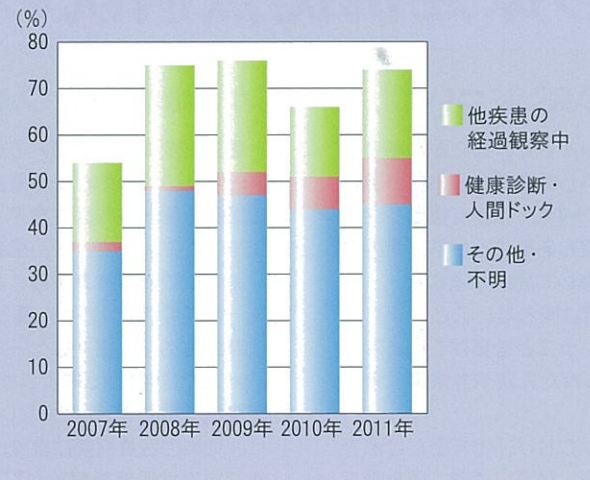
## 悪性リンパ腫：診断時住所別の粗罹患率

悪性リンパ腫の粗罹患率をみると、江北町をはじめ、玄海町、神崎市、嬉野市、小城市が増加という結果となりました。



## 白血病：発見経緯推移

白血病の発見経緯の健診・人間ドックに着目してみました。健診や人間ドックが白血病の発見と考えられる傾向がみられました。



【作成者】

院内がん登録データ収集・分析・評価WG

- 佐々木 和美 (佐賀大学医学部附属病院)
- 光石 はつみ (佐賀県医療センター好生館)
- 酒井 恵 (嬉野医療センター)
- 岩本 利恵子 (唐津赤十字病院)
- 前山 恵士郎 (佐賀県健康増進課)
- 楠田 詞也 (佐賀県健康増進課)



## 佐賀大学医学部附属病院 相談支援センターから「施設別がん登録検索システム」本稼働のお知らせ

全国の<sup>\*1</sup>がん診療連携拠点病院の「院内がん登録」のデータを利用して、施設別がん登録の件数を検索できるシステムが佐賀県でも利用できるようになりました。

がんの種類や地域などを指定して、一定の診療経験のある施設を探すことができます<sup>\*2</sup>。佐賀県でこのシステムが利用できるのは、都道府県がん診療連携拠点病院である佐賀大学医学部附属病院ですが、遠方の方は、県内のがん診療連携拠点病院のがん相談支援センターでも相談を受け付けています<sup>\*3</sup>。

<sup>\*1</sup>検索できるのは、院内がん登録データを本システムでの活用に協力することに同意したがん診療連携拠点病院のデータのみです (全国のがんすべてのデータではなく限られた範囲のデータです)。協力病院の最新情報はがん情報サービスのホームページでご確認下さい。

<sup>\*2</sup>検索結果を利用するには必ず「がん相談支援センターで対応可能な内容と留意事項」をご確認下さい。

<sup>\*3</sup>お近くのがん診療連携拠点病院で相談内容を伺い、それを佐賀大学病院のがん相談支援センターに伝達して検索し、その結果をお伝えしますので数日を要します。あらかじめご了承下さい。

詳しくは下記サイトをご覧ください。



佐賀県がん診療連携協議会

「施設別がん登録検索システム」運用のお知らせ

[http://air.med.saga-u.ac.jp/gankyoten/?page\\_id=791](http://air.med.saga-u.ac.jp/gankyoten/?page_id=791)

国立がん研究センター

「施設別がん登録検索システム」運用のお知らせ

[http://ganjoho.jp/public/news/2014/h26\\_search\\_system3.html](http://ganjoho.jp/public/news/2014/h26_search_system3.html)